

「建設資材の需要見通し」及び「課題と対応状況等」について

(発注機関)

H26.3.19

平成 25 年度第 3 回建設資材対策東北地方連絡会宮城県分会

目 次

1	国土交通省東北地方整備局	1
2	農林水産省東北農政局	2
3	農林水産省東北森林管理局	3
4	宮城県農林水産部農村振興課	4
5	宮城県農林水産部森林整備課	5
6	宮城県仙台土木事務所	6
7	宮城県東部土木事務所	7
8	宮城県気仙沼土木事務所	8
9	宮城県北部土木事務所	9
10	宮城県東部土木事務所登米地域事務所	10
11	仙台市	11
12	宮城県道路公社	12
13	東日本高速道路（株）東北支社	13
14	東日本旅客鉄道（株）仙台支社	14
15	東北電力（株）	15

建設資材の需要見通しについて

<p>【生コンクリート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>気仙沼地区は、約 700m³／(月平均)の需要</u>で推移、供給可能量(63,000m³)に対しての<u>影響は小さい。</u> ・<u>石巻地区は、約 8,300m³／(月平均)の需要</u>で推移、供給可能量(72,000m³)に対しての<u>影響は小さい。</u>(コンクリート製品への転換対策) ・<u>仙台地区は、約 3,700m³／(月平均)の需要</u>で推移、供給可能量(169,000m³)に対しての<u>影響は小さい。</u>(コンクリート製品への転換対策) <p>【アスファルト合材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>宮城県内での需要量が約3,500t／(月平均)の需要</u>で推移、供給可能量(421,200t)に対しての<u>影響は小さい。</u> <p>【碎石】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>宮城県内での需要量が約1,900m³／(月平均)での需要</u>で推移、供給可能量(295,000m³)に対しての<u>影響は小さい。</u>
--

課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
①生コン不足の対応	① <u>引き続き、需給状況に注視しながらコンクリート二次製品への転換により生コン使用の抑制</u> に努める。また、 <u>各協組エリアを越えた供給支援体制</u> について宮城県生コンクリート協同組合連合会に要請。
②不足するコンクリート用骨材(砂)の確保について	②逼迫する生コンクリート用骨材(砂)の確保のため、 <u>河川・ダム湖に堆積する川砂</u> を最大限に活用した <u>供給支援</u> を実施。 (七ヶ宿ダム：七ヶ宿観光開発 → 約9,900m ³ 採取／H26.3.14現在) (北上川：迫砂利協業組合 → 約8,900m ³ 採取／H26.1末現在)
③官民の協力連携、情報共有体制について	③昨年11月より、 <u>国・地方公共団体の発注見通しを統合して公表</u> 。 また、2月1日に「 <u>復興加速化会議(第3回)</u> 」を開催。

建設資材の需要見通しについて

○平成25年度使用資材のうち、鋼矢板等の仮設材、ブロックやフルーム類及び基礎杭等の二次製品についてはメーカー等の尽力もあり、ほぼ予定に沿って納入されている。生コンについては一部にセメント種別の変更があるほか、特に名取・岩沼地区で厳しい状況が見られる。

○平成26年度以降使用資材は、海岸ブロック6千個、フルーム10千m、生コン20～30千m³、砕石・山土類・仮設鋼材など若干量。

○今後本格化するほ場整備事業用資材が多量(用水管・給水栓、暗渠管・材、排水フルーム、客土材・山土類、道路砕石等)。

課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
1. 生コン並びに生コン車及びポンプ車の調達 ・生コンは出荷制限や予約が取れないなどの状況あり ・ポンプ車は地域保有車が逼迫し取り合いの状況、一部に自前遠隔地調達の実績あり 2. 建築工事の技能作業員の確保、今後、復興住宅との競合を懸念 3. 山土類(客土材等)の取引条件がダンプ不足のため、現場渡しから土場渡しとなった実績あり	1. 2ヶ月前予約や打設日の遵守などで対応しているが、大口需要家の予約状況、亘理復興プラントの状況、生コン車やポンプ車の状況と見通しなど、地区単位での情報共有を要望 2. 地元業者の状況など情報を得たい 3. 自前調達ダンプで土場に取りに行ったが、今後の見通しや全体的な状況など情報を得たい

建設資材の需要見通しについて

○仙台海岸防災林復旧工事は、2月末現在で、全体計画量約900ha(盛土量約2000万 m^3)のうち、平成25年度までで、約148ha(盛土量341万 m^3)が完成済み、および完成見込み。

現在、次年度に向けた事業の調整中で有り、計画中の事業量は合わせて約200ha(盛土量約460万 m^3)程度。なお、実施時期等は未定。

さらに、計画量からみると、平成27年度は約400haの規模で事業を実施する必要があるが、事業対象箇所が多くで、未だにがれき置き場等で貸付が続いていたり、跡地処理が遅れていたり、自然保護関係への対応などで遅れている。特に民有保安林では所有者から承諾が得られていなかったり、所有者不明で事業の目処が立っていなかったりしている。そのほか、計画箇所の一部では、換地や公園計画等により復旧対象から外れる箇所や、完全水没で復旧を見直すべき箇所も出ている。

○気仙沼地域では、海岸防潮堤1箇所(124m)を現在施工中。来年度以降、7箇所(約3500m)の防潮堤施工を予定。防潮堤の本体コンクリート必要予定量は約10万 m^3 。そのほか、海岸防災林復旧工事を5箇所を検討中であり、他事業との調整などの問題があるが、約300万～400万 m^3 程度の盛り土による海岸林造成事業を想定している。平成26年度の事業量は現在調整中である。

課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
①盛り土資材(山砂)などの価格上昇。 ②請負業者の山砂の調達先が遠隔地にならざるを得ない場合。 ③がれき置き場、作業ヤードなど、他事業との調整により、事業の進行に影響が出る可能性がある。	①月一回、山砂価格の調査を行い、実勢価格の積算への反映に努めている。 ②調査、確認後、実態に応じ、設計変更を行うこととしている。 ③復興事業の遅れを解消するため、関係機関と連絡調整を密に図っていく。

建設資材の需要見通しについて

- 農業農村整備事業における、復興交付金事業によるほ場整備工事がピークとなってくるため、コンクリート二次製品納入遅れが懸念される。
- 農地復旧事業において、地盤沈下箇所への盛土材の不足。約3,170,000m³必要。

課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
<ul style="list-style-type: none"> ○コンクリート二次製品の不足懸念 ○ほ場整備工事に伴う盛土材料の不足について 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンクリート製品組合等との関係団体と連携を図り、平成25年度から実施した需要見込み等の早期情報提供を行うこととする。 ○地盤沈下に対する対策として、盛土による設計だけでなく、別途工法検討し、必要最小限となるような工法により実施設計を図っている。 なお、各種団体より、残土提供を受けているところではあるが、残土等発生する工事等があれば、情報提供いただきたい。

建設資材の需要見通しについて

治山事業については、平成26年秋以降に災害復旧事業の施工が本格化し、石巻、気仙沼両地区で生コンクリート約9万m³、生コンクリート(二次製品転換分)については約5万m³の需要が見込まれる。

課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
生コンクリート(二次製品転換分含む)の資材不足	仮設プラント設置事業における対象工事以外については、今後も引き続き関係機関との連携を図りつつ、必要な対策を講じる。

建設資材の需要見通しについて

- アスファルト合材については、必要な総量は110千t程度であり、年内は5,000t未満/月程度であるが、H27年1月～3月は6,000～9,000t/月程度で推移する見通し。
- 生コンクリートについては、必要な総量は335千m³程度であり、5月までは6,000m³/月程度であるが、6月以降は増加し、11,000～18,000m³/月となる見通し。
- 生コンクリート(二次製品への転換)については、必要な総量は312千m³程度であり、5月までは3,000～7,000m³/月程度であるが、6月以降増加し12,000～16,000m³/月程度となる見通し。
- 砕石については、必要な総量は343千m³程度であり、年度内を通して9,000～14,000m³/月程度となる見通し。
- 捨石については、必要な総量は262千m³程度であり、年度内を通して8,000～16,000m³/月程度となる見通し。
- 鉄筋については、必要な総量は5千t程度であり、700t/月以下で推移する見通し。
- 鋼矢板(本設)については、必要な総量は44千t程度であり、年度内を通して1,000～5,000t/月程度となる見通し。
- 仮設鋼矢板については、今後総量で15,000t程度が必要となる見通し。

課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
○平成26年度からの復旧・復興工事の本格化に伴い、実際の資材供給体制がどのようになるのか見通せていない。	○今後の動向を注視するとともに、工事の平準化についても可能な範囲で検討していきたい。

建設資材の需要見通しについて

東部土木事務所及び石巻市・東松島市・女川町の集計結果は以下のとおり

主要資材	単位	需要量 合計	平成26年度												平成27年度	平成28年度	平成29年度
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
アスファルト合材	t	399,194	12,425	12,996	13,933	5,521	7,359	8,532	7,663	4,943	4,503	4,423	7,696	13,806	135,372	86,546	73,476
生コンクリート	m3	959,592	13,971	31,339	14,761	14,640	18,551	25,111	25,578	28,303	29,315	28,828	28,865	30,403	307,443	218,051	144,431
生コンクリート(ミキサ一船)	m3	2,932	0	0	0	220	200	100	0	0	0	0	0	0	0	2,412	0
生コンクリート(二次製品転換分)	m3	239,654	6,417	4,957	10,560	5,643	4,086	4,096	9,227	9,342	8,144	10,562	9,120	11,359	100,402	41,465	4,272
砕石	m3	1,175,833	26,887	24,411	29,788	27,341	29,243	28,295	24,082	33,070	39,356	35,174	35,833	31,642	409,014	220,168	181,527
捨石	m3	601,311	22,171	32,649	29,248	24,508	23,188	25,333	23,673	21,289	21,789	20,289	20,289	20,399	220,483	71,503	24,500
鉄筋	t	17,141	291	142	451	635	512	396	201	445	1,067	580	608	350	5,558	3,328	2,579
鋼矢板(本設)	t	35,857	2,972	3,107	2,162	1,194	1,002	1,196	1,919	1,949	1,875	1,420	1,109	1,610	11,649	2,694	0

課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
<p>○仮設生コンプラントが来年度早々に稼働開始予定であり、指定工事について計画的発注が望まれる。</p> <p>○石材の1日当たりの供給量が、1日当たりの施工量よりもかなり少ない。</p> <p>○異形ブロックの製作・仮置きヤードの確保</p>	<p>○仮設生コンプラントの生コンを使用する工事は海関係が多く、この一年海象状況が通年より悪い日が続き工期が延伸となる傾向にあり、新たに発注される工事については、不調の確率が高いことから、その要因を関係者よりヒヤリングするなど積算内容等の改善を図りながら計画的に発注する。</p> <p>○現場付近に借地出来る用地を各機関の情報を収集し、ストックヤードを確保し、施工のない日でも、運搬しストックする。</p> <p>○上記により、ヤードの確保が出来ない場合は、二次製品製作工場等を活用する。</p>

建設資材の需要見通しについて

気仙沼土木、気仙沼市及び南三陸町における建設資材の動向と需給見通し(H26. 2現在)の集計結果は、以下のとおりである。

○アスファルト合材の平成26年度需要量は約6万トンで、平成25年度比では約2.8倍となっており、10月以降は月5千トンを超える使用量が見込まれる。今後のピークは平成27年度で約9万トンと見込まれる。

○生コンクリートの平成26年度需要量は約54万m³で、平成25年度比では約3.0倍となっており、11月～2月には月6万m³を超える使用量が見込まれる。平成26年度がピークで、平成27年度は約30万m³と概ね半減する見込みである。

○コンクリート2次製品への転換見込み量は平成26年度では約14万m³となっており、平成25年度比では約14倍となっている。今後のピークは平成27年度で約27万m³と見込まれる。

○碎石の平成26年度需要量は約24万m³で、平成25年度比では約2.4倍となっており、1月～3月は月3万m³を超える使用量が見込まれる。今後のピークは平成27年度で約33万m³と見込まれる。

○捨て石の平成26年度需要量は約32万m³で、平成25年度比では約1.6倍となっており、7月～3月まで概ね月3万m³を超える使用量が見込まれる。平成26年度がピークで、平成27年度は約17万m³と概ね半減する見込みである。

○盛土材の平成26年度需要量は、上半期に発生残土量が盛土量を上回って約200万m³の残土となるが、下半期は逆に約100万m³の不足となり、年度集計としては約100万m³の残土になると見込まれる。平成27年度は、盛土材の不足が顕著となり、平成29年度までには管内全体で約140万m³の盛土材が不足すると見込まれる。

課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
<p>○生コンの安定供給 河川・海岸の災害復旧工事が本格化する平成26年度に需要がピークを迎え、生コンの供給不足が懸念された。</p> <p>○捨て石の調達 石材の供給量増加が見込めず、資材の入手が困難となっている。</p> <p>○土砂の需給調整 気仙沼土木管内において土砂の需給調整を行っているが、残土が発生する現場から不足する現場へ運搬が必要となるが、南北に運搬するための幹線道路は国道45号しかなく、交通渋滞が懸念される。</p>	<p>○仮設プラントの開設 気仙沼市大島の仮設プラントはすでに稼働しているが、さらに気仙沼市本吉地区、南三陸町戸倉地区において、平成26年4月から仮設プラントの稼働が見込まれ、安定供給に大きな期待が寄せられている。今後、計画的な工事発注にも留意する必要がある。</p> <p>○遠隔地からの調達 管内での供給が見込めないため、岩手県など遠隔地からの石材を調達している。</p> <p>○地域ブロック内での需給バランス 気仙沼市で6エリア、南三陸町で3エリアの地域ブロックを設定し、小さなエリア内での需給調整を図り、効率的な土砂運搬を検討している。</p>

建設資材の需要見通しについて

- ・ 北部土木事務所管内においては、H26年7月と10月頃にアスファルト合材と砕石の使用量が増加する見込みとなっている。
- ・ H25年度においても凍上災や舗装補修などでアスファルト合材の使用量が多かったが工事に支障が生じる状況とはなっていない。

課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
<ul style="list-style-type: none"> ・ コンクリート二次製品 (BOX, 側溝, 柵など) については, 沿岸部への出荷が多いため汎用品でも入手が困難となっており, 入荷まで3ヶ月という現場も出ている。 ・ 仮設材 (敷鉄板) や一部重機も調達が困難な状況となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県外からの調達も困難で, 入荷するのを待っている状況である。 ・ 仮設材や一部重機については, 業者が工事で使用しない期間も保有し続けるなど確保対策を図っている。

建設資材の需要見通しについて

登米地域における県及び市の主要資需要見通しは下記のとおりである。

- アスファルト合材については、平成26年度で約63千t、平成27年度で約30千t程度の需要となる見通し。
- 生コンクリートについては、平成26年度で約6千m³、平成27年度で約4千m³程度の需要となる見通し。
- 砕石については、平成26年度で約53千m³、平成27年度で約30千m³程度の需要となる見通し。

課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
○河川工事等における吸出防止材の供給が不足している。 ○一部二次製品の供給に時間を要している。	○工期の延長や構造等の変更により対応を行っている。

建設資材の需要見通しについて

主要資材	単位	需要量 合計	平成26年度												平成27年度	平成28年度	平成29年度
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
アスファルト合材	t	241,697	7,297	7,190	6,750	8,495	8,661	12,993	14,131	11,664	12,099	14,779	12,049	9,840	42,148	38,976	34,624
生コンクリート	m3	311,135	41,419	40,633	38,248	37,682	36,280	32,432	24,114	21,738	16,140	8,859	5,462	3,250	2,495	856	1,525
生コンクリート(ミキサ一船)	m3	3,050	5	10	10	5	5	105	105	105	155	155	105	5	760	760	760
生コンクリート(二次製品転換分)	m3	5,798	78	154	246	152	192	205	290	114	340	303	70	243	910	2,244	255
砕石	m3	331,299	17,181	16,527	11,998	12,872	13,842	16,526	20,178	18,059	23,811	21,130	19,156	16,707	63,110	34,592	25,610
捨石	m3	3,238	0	73	50	150	50	465	50	50	55	55	55	55	1,015	615	500
鉄筋	t	24,048	4,843	2,666	2,607	2,246	2,203	2,108	2,022	2,267	1,209	484	232	87	534	232	308
鋼矢板(本設)	t	473	5	65	89	10	10	243	5	5	24	9	9	0	0	0	0

○復興(災害)公営住宅(公券買取含む) ⇒ 平成26年度がピーク(生コン需要量:約7,000m3/月)

課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
<ul style="list-style-type: none"> ○生コンや砕石など調達が少量の場合、受注者自らプラントへの受取りによる作業効率の低下 ○生コンの需給バランスを最適に保つための課題 ・工程調整による需要量の平準化 ・生コン打設時間帯の情報共有化 ○需給予測の精度向上 ○打設日変更(納入キャンセル)による無駄となるコンクリートの低減 	<ul style="list-style-type: none"> ○遠隔地からの建設資材調達に係る変更契約の運用を開始(対象資材:生コン、As合材、石材、仮設材) ○コンクリート二次製品の活用(転換)⇒H25.3庁内通知発出 ○生コンクリートの安定確保に向けた事前調整などの徹底⇒H25.12庁内通知発出

建設資材の需要見通しについて

- 当公社では、復興道路である三陸道の一部「仙台松島道路」の4車線化事業を推進している。
- 4車線化事業の工事ピークは今年度(H25年度)であり、来年度(H26年度)末には全線4車線供用の予定である。
- 資材需要のピークは過ぎたが、来年度(H26年度)もアスファルト合材(約4万t)、生コン(約4千m³)、碎石(約2万m³)など、多くの建設資材を必要としている。
- 4車線化事業が完了する平成27年度以降については今のところ大規模工事の予定は無いため、建設資材の需要量は大きく減少する。

課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
<p>■資材供給に関して今のところ工事進捗に影響を及ぼすような状況にはないが、今後の供給状況(特に生コン)に不安は感じている。</p>	<p>○資材(路盤材)のストックヤードを設け、可能な限り資材を事前調達している。</p> <p>○生コンについては、事前(2~3ヶ月前)にプラントに予約を入れることで、供給の確実性を確保している。</p>
<p>■コンクリート2次製品について、融通(数量の増加、規格の変更)が利きづらくなっている。</p>	<p>○コンクリート2次製品の変更が生じないよう、設計図書と現場状況の事前確認を重点的に実施している。</p> <p>○汎用品については調達先を複数にするなどし、資材調達の安定確保に努めている。</p>

建設資材の需要見通しについて

	資材	単位	H26.4-H26.9	H26.10-H27.3	H27年度	H28年度	計
【仙台地区】	アスファルト	t	85,349	4,760	44,000	11,000	145,109
	コンクリート	m ³	3,444	2,300	0	0	5,744
	砕石	m ³	5,050	0	0	0	5,050
	鉄筋	t	373	600	0	0	973
	鋼矢板	t	0	0	0	0	0
【大崎地区】	アスファルト	t	13,800	9,100	18,500	11,900	53,300
	コンクリート	m ³	0	0	0	0	0
	砕石	m ³	0	0	0	0	0
	鉄筋	t	0	0	0	0	0
	鋼矢板	t	0	0	0	0	0

課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
① 安定した資材の確保 ② 入札不調の多発	① 契約変更(条件変更) ② 入札前価格交渉(競争参加希望者からの見積を採用)の採用

建設資材の需要見通しについて

仙石線の復旧工事に引き続き、新年度(平成26年4月)からは石巻線(浦宿～女川駅間)の復旧工事に着手します。使用する建設資材として、生コンクリート約1,000m³、砕石約3,600m³などの需要を予定しています。
また、今後復旧工事が本格化し、施工内容によっては数量の変更が伴う可能性もあります。

課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
<p>(平成25年9月開催の建設資材対策連絡会において) 東部地区の生コンクリート概算受給量については、平成26年度に需要が供給量を超える状況であると認識しています。 当社においても、平成26年度に仙石・石巻線の復旧工事が本格化し、生コンクリートを使用する計画であるため、円滑に供給されない恐れがあると危惧しています。 以上のことから、復旧工事の進捗に遅れが生じることも想定し対応しなければなりません。</p>	<p>計画的に生コンクリート調達計画を供給会社に通知して対応を図ります。</p>

建設資材の需要見通しについて

1. 恒常的な工事量は減少傾向であり、中長期的には建設資材の需要量は震災前の計画レベルに戻っていない。
2. 電源新設工事では短期的に建設資材を要することから、請負工事会社を通じて供給会社と十分な調整を図り、建設資材の調達を行っている。
3. 女川原子力発電所では安全対策の強化を図る上で、今後継続的に安全対策工事を実施する計画であることから、当面、建設資材(特に生コンクリート)を要する状況である。

課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
<p>1. 女川原子力発電所においては、現在、震災後の影響により生コン供給量の上限値が設定(月・水・金において120m³/日)されているため、発電所内で実施している各種工事においては工事の重要度等から優先順位を決めて、供給制限値内で施工しているが、今後、発電所の更なる安全性確保に向けて生コン不足は必至と考えられる。</p>	<p>1. 女川原子力発電所内の工事において必要となる生コンの調達方法について、現在、社内外の関係個所と協議・検討中。</p>